

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

精神保健福祉援助実習で得たこと

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **佐藤 幸恵**

はじめに

私は、昨年度に行われた精神保健福祉士の国家試験に合格し、通信教育部を卒業しました。現在は、精神科病院のケースワーカーと地域活動支援センターの指導員の仕事を掛け持ちして働いています。

病院と施設では、業務内容や立場、求められる視点が違います。しかし、両方の現場にいるからこそみえてくることや感じることを大切に、「患者さんの立場・利用者さんの立場」を最優先に考え、業務に取り組める環境にいることに日々、喜びを感じています。

今回、このような機会をいただき、通信教育部で学んだことを現場で生かしているか、改めて振り返るきっかけとなりました。私が当時、職員としてではなく、実習生として人と関わり、出来ること・感じたことをもとに実習の体験をお伝えしたいと思います。

実習を通して

私はもともと精神保健福祉の現場とは関係のない仕事をしていましたが、実習開始日の前月にそれまでの職を退職し、実習に臨みました。

私の実習先は、現在の勤務先の一つでもある地域活動支援センターでした。地域活動支援センターは、利用者さんが日中活動の場として、就労訓練の場として、個々に目的を持って通っている場所です。社会復帰の第一歩の役割を果たしている場所といえます。

私は、地域活動支援センターの役割と効果について知りたいという目的

を持って「地域活動支援センターの存在の意味を学ぶ」というテーマを設定し実習を行いました。

実習では、作業活動の見守りやサロンスペースで利用者さんとおしゃべりをして過ごしました。始めは、利用者さんとコミュニケーションをとろうと、「何か話さなければ」と焦ったりしましたが、実習指導者や職員の方々が利用者さんとかかわる様子を観察したり、指導を受け、その時の状況や利用者さんの状態に応じ、今自分ができることを行っていく大切さを学びました。

福祉サービス等わからないことについては、まず教科書や参考書で調べました。それでもわからなければ、実習指導者に聞きました。実習生はわからないことがあって当然です。恥ずかしいことはありません。疑問点について考え、調べ、質問することで確実に知識が広がり今後に役立ちます。私は実習中、実習指導者の方から参考書を多数お借りし、知識の幅を広げることができました。

私は、地域活動支援センターでの実際の利用者さんとの関わりの中で、就労支援ばかりに重点を置かず、一人の人間が生活していくということを多面的に捉える視点を学びました。決して、就労することだけをゴールとしている人ばかりではない。私はそれを知り、人を支援するという今まで持っていた概念が変わった気がします。

実習中は、「実習生だからこそ」「実習生の立場でしか体験できないこと」が必ずあるはず。一度きりの精神保健福祉援助実習をぜひ楽しんでいただきたいと思います。

精神保健福祉士としての現在

私は現在、精神科病院と地域活動支援センターという二つの異なる現場で働いています。病院では、長期入院や高齢化、家族の受け入れが難しい

等の理由でなかなか退院へ進まない方がいます。毎日悩み、自分の無力さを感じる事が多々あります。

しかし、どんな場所で支援を行っていても心がけていることがあります。「とにかく患者さん・利用者さんのもとに足を運び、コミュニケーションをとること」です。精神保健福祉士としての支援は、何一つ同じケースはありません。同じ人間とは言っても、その人の生きてきた歴史、様々な事情があります。それは人によって違います。そこに少しお邪魔し、お手伝いをさせていただくわけですからその人に寄り添い、その人を知り、その人の持つ力を信じる事が大切なのだと思います。

支援する私自身も悩みを抱え、自分のことで精一杯の時もあります。そのような時の自分の気持ちの切り替え方、方法について現場で共に働く先輩方や他職種の方に相談しながら対処していくことの大切さを感じている今日この頃です。支援者も人間です。出来ることも出来ないこともあります。何でも出来ると勘違いをせず、出来ないことは出来ないと認めることも場合によっては必要なのだと思います。

最後になりますが、これから精神保健福祉援助実習を行うために努力している皆様へ・・・。仕事、レポート、スクーリング、実習、国家試験・・・辛い、苦しい、不安と思う時があるかもしれません。でもきっとそこには支えてくれる人が必ずいます。患者さんや利用者さんに助けられ救われることがあるはずです。応援してくれる家族や友人がいます。その人たちへ感謝の気持ちを伝えるためにも頑張ってください。そして、ぜひ同じ精神保健福祉士として現場で活躍しましょう。私も、いつまでも学ぶ気持ちを忘れずに日々成長していけるよう、努力していきます。

末筆ではございますが、これまでご指導いただいた先生方、今回このような機会を与えて下さった通信教育部の皆さまに感謝申し上げ、私の体験談といたします。本当にありがとうございました。